



2013-2014 年度

地区補助金事業報告

プロジェクト名: 社会福祉法人「広島いのちの電話」相談室の環境改善のために、椅子6脚・書棚3台・テーブル1台を寄贈する。

プロジェクトの概要について

社会福祉法人「広島いのちの電話」1988年に開局し、今年に創立25周年の節目を迎え、170名の相談員が交代で諸課題の解決に向け、一日24時間、365日不眠不休で純粋な傾聴ボランティアの理念を胸に「眠らぬダイヤル」として日夜、悩める相談者に寄り添い「傾聴」を続ける、いのちを大切にする市民団体である。1か月の平均相談件数は約1,500件、1日40～50件を受信し、1件当たりの傾聴時間は平均40分で、受信率はそれでも20～30%にと止まっている。

本法人は寄付、及び維持会員による会費に支えられているが、昨今の世界的な不況に影響され維持会員の減少が続く、組織的、経済的に苦しい運営を余儀なくされている。また、運営面での「相談室」の環境整備が喫緊の課題となっている。

「相談室」は2名ずつの交代制で1回の当番時間は3.5～11時間となっており、使用する備品は殆どが相談員からの中古での寄付品であり、備品の痛みが酷くなっている。特に椅子は24時間の継続使用による老朽化が進み、着席スタイルで通す相談員の腰痛の原因にもなっており、早急に入れ替えの必要に迫られている。以上の現状を知り、支援活動を実施する事を決定した。



実施報告

相談室の環境整備のために、相談者からの相談内容を記録する相談帳を収納する書類入れケース棚3個、相談員・事務局員・来訪者用の椅子6脚、事務作業及び打合せ用のテーブル1台を寄贈した。

併せて、2013年9月26日の例会に塩山二郎副理事長・藤井悟事務局長を招き、施設の活動内容と意義に関する勉強会を実施し、会の活動内容や存在意義、また現状の課題点について理解を深めた。



いのちの電話に 備品10点を寄贈 広島北RC

広島市の広島北ロータリークラブは26日、心の悩み相談に応じる社会福祉法人「広島いのちの電話」(中区)にテーブル、椅子、書類棚の計10点を寄贈した。南区のホテルで贈呈式があり、同ロータリークラブは、会員の寄

「クラブの庄子佳良会長(61)が、同法人の塩山二郎副理事長(70)に目録を手渡した。塩山副理事長は「命を救う活動に生かしたい」と感謝していた。同法人は1988年に設立。ボランティアが電話を受ける相談室では備品の老朽化が進んでいた。同ロータリークラブは、会員の寄

付金を寄贈品の購入費に充てた。

庄子会長から目録を受け取る塩山副理事長

(2013年9月27日 中国新聞朝刊掲載)